

三木ロータリー週報

会長・稲見 秀穂 幹事・横尾加名子 S.A.A. 石井 盛久 クラブ会報委員会一発行

例会日・毎週金曜日12:30～13:30 例会場・三木商工会館4階大会議室 T E L (0794) 82-3190

事務局・兵庫県三木市本町2丁目1番18号 三木商工会館内 T E L (0794) 82-8880
F A X (0794) 82-0909
URL: www.miki-rc.jp E-mail: info@miki-rc.jp

よいことのために手を取りあおう

三木ロータリークラブ2025-2026年度テーマ さりげなく

2025年10月24日

NO. 15 (NO.3280)

次回のプログラム 10月24日 会員卓話 伊藤 史晃 会員「自己紹介」

今回のプログラム 11月 7日 クラブフォーラム 米山奨学会・R財団委員会 久野大介 委員長

本日のソング



それでこそロータリー

次回11月7日のお弁当は荒川さんです S.A.A.

※10月31日 特別休会です！

ホームページ会員専用
ID: mikirc
PW: miki1230

出席記録	会 員 数	出席者	当日出席率	メークアップ他	出席率
本 日	50名中				
10月10日	50名中	34名	34/42 80.00%	1名	35/42 83.33%
10月 3日	50名中	28名	28/41 68.29%	4名	32/41 75.60%

◇10月 3日のメークアップ 出席者 石井盛久君・津村敏弘君・友定道介君（親睦ゴルフ）田中聖之君（危機管理・青少年セミナー）

◇10月10日のメークアップ 出席者 小藤貴雅君（親睦ゴルフ）

前回例会2025年10月10日の記録

【会長の時間】

本日はクラブフォーラム講師として、飴村様にお越しいただき誠にありがとうございます。また、昨日の会員家族ゴルフ大会にご参加いただいた皆様、大変お疲れ様でございました。

先週は自民党の総裁選についてお話ししましたが、その結果、高市早苗さんが新総裁に就任されました。党员票で圧倒的な支持を集め、兵庫県でも非常に多くの票を獲得されたとのこと。自民党としても、民主的な選挙を経てリーダーが選ばれた形となり、制度としても納得のいく結果だったのではないのでしょうか。

この結果を受け、「高市トレード」と呼ばれる現象が起き、株価が4.8%も上昇しました。これは過去2番目の上昇率で、あの田中角栄さんの時でさえ約1%程度だったそうです。高市さんは積極財政派として知られ、日銀のポートフォリオについても「あくまでも手段である」と明言されており、まさに高市さんらしい率直で明快な姿勢だと感じます。

さて、明日から三木の宮八幡宮で秋祭りが行われ、翌週には岩壺神社の秋祭りが続きます。もともとこれらの祭りは、10月17日の神嘗祭に合わせて行われていたもので、新米を天照大神に献上する伊勢神宮最大の行事に由来しているそうです。

【幹事報告】 10月17日、31日は休会です。

【委員会報告】 出席 本日の出席は会員50名中34名で出席率は80.00%です。

親睦 昨日の家族親睦ゴルフ大会お疲れ様でした。東播第3グループ5RC ゴルフ大会（3連覇が懸かる）と三木市内奉仕6団体チャリティーゴルフ（2連覇が懸かる）の案内を回覧します。本日締切の前者は会費7,000円を来週集金予定です。



ニコニコ箱 (*^-^*)

合計 ¥224,000円

- 坂本 雅直君 昨日は親睦ゴルフお疲れ様でした。横尾さん、つけもの一夜漬けありがとうございます。さっそく作ってみます。
- 小藤 貴雅君 昨日の会員家族親睦ゴルフ大会において、ハンディキャップに助けられて優勝させていただきました。ありがとうございました。坂本委員長、お世話になりました。本日は欠席し申し訳ありません。
- 森永 英樹君 結婚記念日にお花を頂き、ありがとうございました。
- 金鹿 功君 19日(日)の甲子園クライマックスチケット 2枚あります。社員からです。希望あれば言ってください。
- 河原 秀行君 明日より大宮八幡宮の秋の例大祭です。宮総代として畑中さんに使われています。（苦笑）



クラブフォーラム 社会奉仕委員会 繁田 正文 委員長

ゲスト講師：飴村 雄輔 様（株式会社木匠 取締役会長）「日本の木工技術と木の文化」



皆さん、こんにちは。私は大阪で株式会社木匠を創業し、6年前に息子へ事業を引き継ぎました。現在は大阪仲買共同組合と大阪府木材連合会の理事として活動しています。もとは土木技師で、ゼネコンでコンクリートや鉄を扱っていましたが、父の都合で材木業を継ぐことになりました。やがて宮大工との出会いで人生が一変し、木の奥深さに魅せられて、伝統技術にこだわる「木匠」を設立しました。



日本の木造建築技術は世界でも際立っています。清水寺の舞台に代表される貫工法は、万博のリング構造にも応用されています。法隆寺のように1400年を超えて現存する建物は他になく、500年以上の木造建築も数多くあります。それほど高度な木工技術がこの国には受け継がれています。

木材には接線・放射・繊維の三方向があり、それぞれ性質が異なります。大工はその力学を熟知しており、繊維方向の強度は非常に高く、縦にすれば象が乗っても潰れないほどです。昔は継手の技術で複数の部材を一体化していましたが、今ではそれを知る職人はほとんどいません。木は圧縮力の強い部分で力を伝え、風や地震でもしなやかに揺れて元に戻ります。剛ではなく柔で耐える構造です。東寺の五重塔や相国寺、東大寺の塔も倒れず、現代のスカイツリーにもこの理論が生かされています。

なぜ日本でこの技術が発達したかといえば災害が多い国だからです。地震大国であり、台風の通り道でもある。法隆寺は1400年の間に震度5以上の地震を30回ほど経験したといわれますが、それでも立ち続けています。日本の建築はしなやかに揺れるように作られ、耐震ではなく制震の思想なのです。同時に、継手を支えるのは優れた刃物の存在です。日本では古くから「たたら製鉄」の技術が発達し、石炭や鉱物が乏しい中、木炭で鉄を精製してきました。備長炭は1300度近い高温を生み出し、純度の高い鉄を生み出しました。この鉄が高精度な刃物を可能にし、木の文化を支えました。

しかし、平成の30年間で大工の数はおそらく10分の1に減少しました。かつての大工は姿を消しつつあります。10年、20年後に木の目を読めず、手道具を扱えない大工ばかりになれば、修理すらできなくなるかもしれません。日本には豊富な森林資源と質の高い木材がありますが、それを生かす職人が減っているのです。

2070年には日本の人口が7000万人になるといわれます。大量生産の時代は終わり、これからは職人の技術そのものを残すことが重要です。私は大阪木材中央共同組合で約40名の講師と木材有効活用研究会を運営していますが、今年新たに「木の暮らしラボ」というNPO法人を申請しました。国産材を活用し、新しい市場を創出することを目的としています。

日本の住宅の平均寿命は約26年といわれます。ヨーロッパでは概ね100年です。建物は100年、200年と持つからこそ意味があり、そのために最も適した素材はやはり木です。これからのSDGsとは「手入れをして、ものを大切に使い続ける」ことにほかなりません。それこそが日本文化であり、木の文化だと私は考えています。その思いを若い世代にも伝えていきたいと思います。最後に、三木の皆さんにも申し上げます。私たち大阪の材業は、このような思いをもって取り組んでいます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

会員家族ゴルフ大会 於：東広野ゴルフ倶楽部

2025年10月9日(木)

